

2級損害保険登録鑑定人

簿記会計

試験問題用紙

(2024年7月)

注意事項

1. 試験責任者の指示があるまで開かないでください。
2. 解答用紙は試験問題用紙の最初の頁に入っています。試験開始の合図があったら解答用紙があることを確認してください。解答用紙がない場合は直ちに申し出てください。
3. 解答用紙には受験番号、氏名、受験地を必ず記入してください。
受験番号は6桁の数字を左の欄から順に正確に記入し、その数字と同じ箇所をマークしてください。記入漏れや間違った内容をマーク・記入すると採点ができませんので、解答した内容はすべて無効（得点なし）となります。また、解答を解答用紙以外に記入しても無効となります。
4. 解答はすべて解答用紙に記入し、解答用紙のみ提出してください。問題用紙は持ち帰って結構です。
5. 解答は、解答用紙の該当する問題の解答欄に楷書で記入してください。
6. HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシルを使用してください。HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシル以外（万年筆、ボールペン、サインペン、色鉛筆等）は使用不可です。
7. 訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムで完全に消してください。消し方が不十分な場合には解答が正しく読み取れないことがあります。修正液等、プラスチック製消しゴム以外は使用不可です。
8. 解答用紙の読み取りは機械処理をしますので、折り曲げたり、汚したり、記入欄以外の余白および裏面には何も記入しないでください。
9. カンニング等の不正行為があったと認められた場合は、当該試験は不合格とし、原則としてその場で試験の中止と退室を指示され、それ以降の受験はできなくなります。
10. トイレや急な体調不良等を含め、一旦退席された場合の再入室はできませんので、ご注意ください。
11. 試験時間は正味50分です。
12. 試験問題の内容に関する質問は、いっさい受け付けません。
13. 試験時間中の私語は禁止します。
14. 資料等の使用はいっさい認められませんので、筆記用具、電卓以外はすべてしまってください。
15. 試験時間中は、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の通信機能・記憶機能を有する機器の使用は、時計として使用することを含めていっさい認められませんので、あらかじめ電源を切っておいてください。
16. 「受験票」および「写真が貼付されている公的本人確認書類」は机の上の見やすいところに置いてください。
17. 問題用紙、解答用紙の印刷に乱丁・落丁があれば申し出てください。

【問題 1】

次の 1～5 の取引の仕訳を解答用紙に記入してください。

なお、勘定科目は下記の勘定科目表から最も適当なものを選び、必要に応じて何度使用しても構いません。

1. 得意先 A 商店が倒産し、前期から繰り越された同店に対する売掛金 ¥40,000 と当期に同店に対する売り上げによって生じた売掛金 ¥30,000 が回収不能となった。よって貸し倒れの処理を行った。ただし、貸倒引当金勘定の残高が ¥20,000 ある。
2. B 商店（個人企業）の事業主は、所得税の予定納税額の第 1 期分 ¥40,000 を店の現金で納付した。ただし、評価勘定を用いて処理すること。
3. C 商店から商品代金として受け取っていた同店振り出しの約束手形 ¥300,000 を取引銀行で割り引き、割引料を差し引かれた手取金 ¥298,000 は当座預金とした。
4. D 商事株式会社（決算年 1 回）は中間申告を行い、前年度の法人税、住民税及び事業税の合計額 ¥4,220,000 の 2 分の 1 を、小切手を振り出して納付した。
5. E 商会の本店は、F 支店が G 支店の仕入先に対する買掛金 ¥200,000 を現金で支払った旨の通知を受けた。本店の仕訳を示してください。ただし、本店集中計算制度を採用している。

《 勘定科目表 》

現	金	当	座	預	金	受	取	手	形
売	掛	未	収	金	貸	付	金		
仮	払	繰	越	商	支	払	手	形	
買	掛	所	得	税	貸	倒	引	当	金
未	払	資	本	金	引	出	金		
売		受	取	手	仕			入	
法	人	租	税	公	手	形	売	却	損
貸	倒	本		店	支			店	
F	支	G	支	店					
店		店							

【問題2】

決算日（12月31日）における次の受取地代勘定の（①）と（②）に入る金額、および（③）と（④）に入る勘定科目を解答用紙に記入してください。ただし、地代は毎年同じ金額を1月末日、5月末日、9月末日の年3回、それぞれ経過した月数分を現金で受け取っています。

受 取 地 代					
1/1	未収地代	（ ① ）	1/31	（ ）	120,000
12/31	（ ③ ）	（ ② ）	5/31	（ ）	（ ）
			9/30	現 金	（ ）
			12/31	（ ④ ）	（ ）
					（ ）
					（ ）

【問題3】

次の精算表の①～⑩にあてはまる金額を解答用紙に記入してください。

精 算 表

令和〇年1月1日～令和〇年12月31日

単位：円

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	180,000						⑤	
当座預金	680,000							
受取手形	180,000							
売掛金	460,000							
有価証券	1,200,000						⑥	
繰越商品	280,000							
備品	4,000,000							
買掛金		420,000						
借入金		800,000						
前受金		100,000						⑦
貸倒引当金		10,000						⑧
減価償却累計額		1,200,000						⑨
資本金		3,800,000						
売上		6,200,000						
受取手数料		400,000						
雑益		10,000						
仕入	4,100,000				①			
給料	1,120,000							
支払家賃	240,000							
租税公課	230,000							
保険料	120,000				②			
支払利息	20,000				③			
雑費	130,000							
	12,940,000	12,940,000						
貸倒引当金繰入								
減価償却費								
有価証券()								
()手数料								⑩
()保険料								
()利息								
当期純利益					④			

<付記事項>

1. 現金の実際有高を調査したところ、実際有高は 184,000 円であった。過不足の原因を調査したが、原因は不明であったので、帳簿残高との差額を雑損または雑益として処理する。
2. 得意先H商店より売掛金 50,000 円を現金で回収した際、受注商品の手付金として処理をしていたので、これを訂正する。

<決算整理事項>

1. 受取手形および売掛金の期末残高に対して 5% の貸倒れを見積る。
2. 有価証券は 1 株 42,000 円に評価替えする。なお、この有価証券はK商事株式会社発行の株式であり、当店は 30 株を保有している。
3. 期末商品棚卸高は 300,000 円であった。
なお、売上原価は「仕入」の行で計算すること。
4. 備品の減価償却を次のとおり行い、間接法によって記帳する。
取得原価：4,000,000 円 償却方法：定額法
残存価額：零 (0) 耐用年数：8 年
5. 受取手数料のうち 120,000 円は、本年 11 月 1 日からの 8 か月分を受け取ったものである。適正額を繰り延べ計上する。
6. 保険料のうち 48,000 円は、本年 10 月 1 日からの 1 年分を支払ったものである。適正額を繰り延べ計上する。
7. 翌年 3 月末に利息 9,000 円を現金で支払うことになっている。これは本年 7 月 1 日からの 9 か月分である。適正額を見越し計上する。